

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 同事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎0120-782-031
(インターネットホームページURL)	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
公告の方法	当社のホームページに掲載する https://www.ferrotec.co.jp/
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 スタンダード

・株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記電話照会先までご連絡ください。

年間IRカレンダー



Ferro Tec

株式会社 フェローテックホールディングス

〒103-0027

東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル5階

TEL 03-3281-8808 FAX 03-3281-8848

URL <https://www.ferrotec.co.jp/>

UD FONT

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用しています。

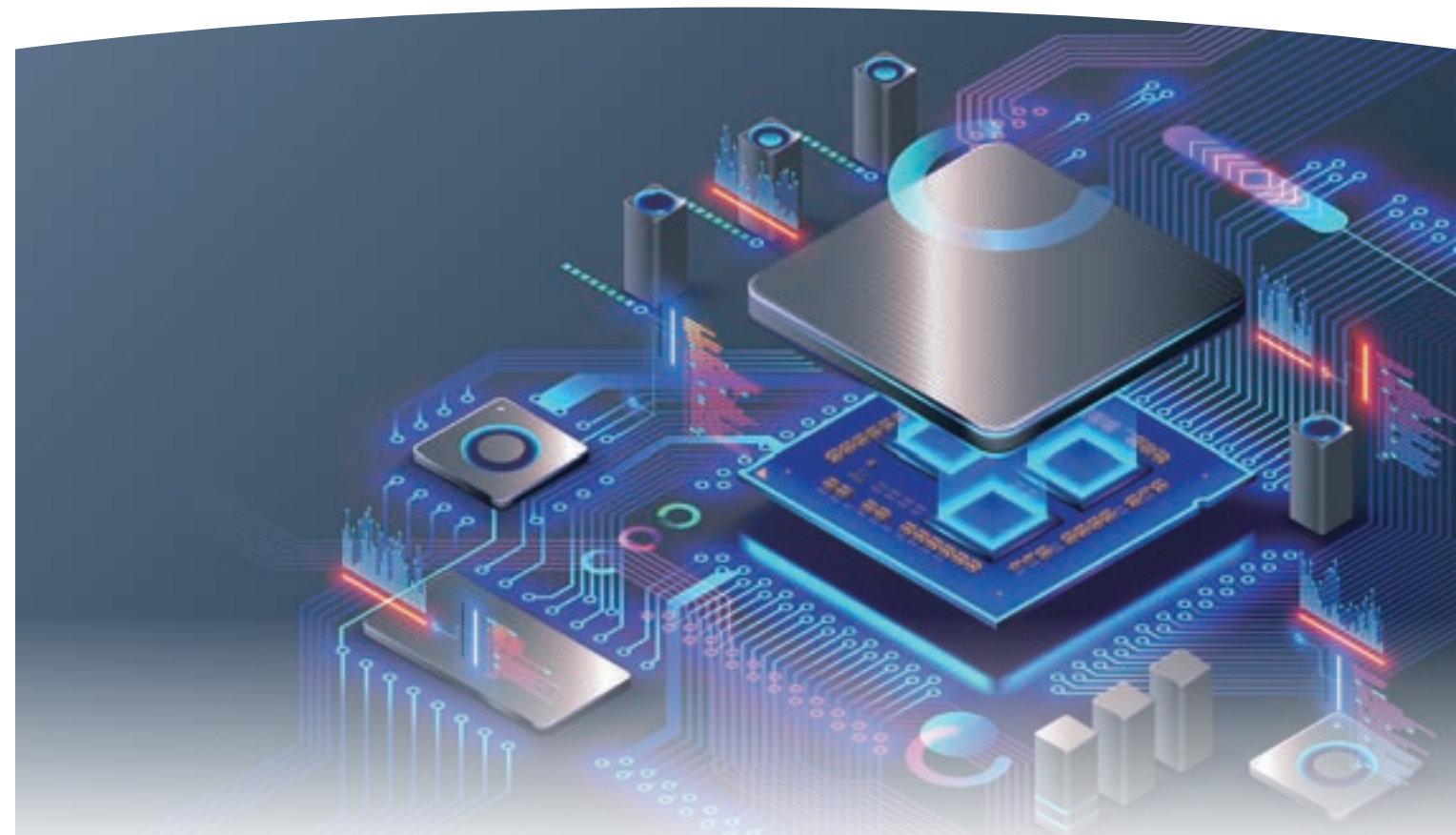


環境に配慮した植物油インキを使用しています。

第42期 決算報告

2021年4月1日～2022年3月31日

証券コード：6890



Ferro Tec

株式会社 フェローテックホールディングス

株主の皆さまへ



代表取締役社長
グループCEO
賀 賢漢

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症より、影響を受けられた皆さまにお見舞い申し上げます。ここに第42期決算報告をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

第42期は米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症が長期化するなか、半導体関連の需要は旺盛な状況であり、当社グループは創業来過去最高の売上高、利益をあげることができました。

当社グループは2022年3月期から2024年3月期の3カ年を対象期間とした「中期経営計画」を2021年5月に公表し、事業成長とともに財務強化、品質強化、人材強化を基本方針として掲げておりましたが、本計画の初年度に2年度目(2023年3月期)の売上、利益の計画を前倒しで達成したことから、この2022年5月に2年度目以降の目標数値等を修正し、より力強く成長していく見直し計画を公表いたしました。

また、こうした力強い成長を支えるため積極的な増産投資、事業投資を進めるとともに、それらを賄うための資金調達を進めてまいりました。これら施策を進めてこれましたのも、ひとえに株主の皆さまのご理解、ご支援の賜物であると感謝いたしております。

また、株主の皆さまのご支援に事業成長で応えることに加え、今後は配当についても、持続的な収益増強により株主還元を増加させていく基本方針は不変ですが、配当性向20%を意識して、財務・投資機会等とのバランスを考慮して判断することといたしました。

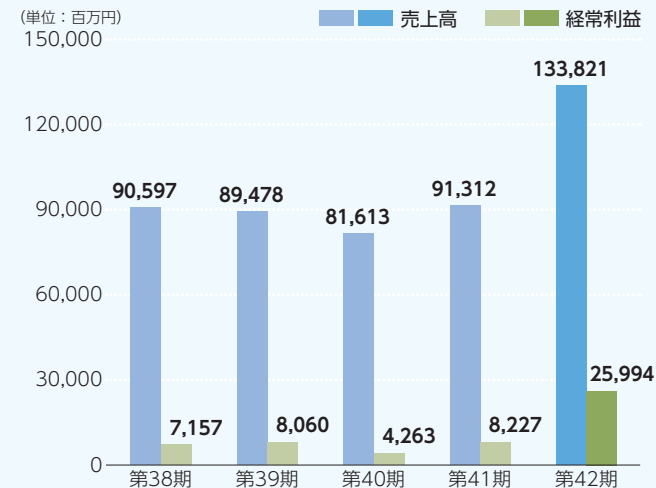
当社グループはこれからも事業成長を追求し、株主の皆さまにとって「成長する楽しみが持てる企業」であり続けるよう努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

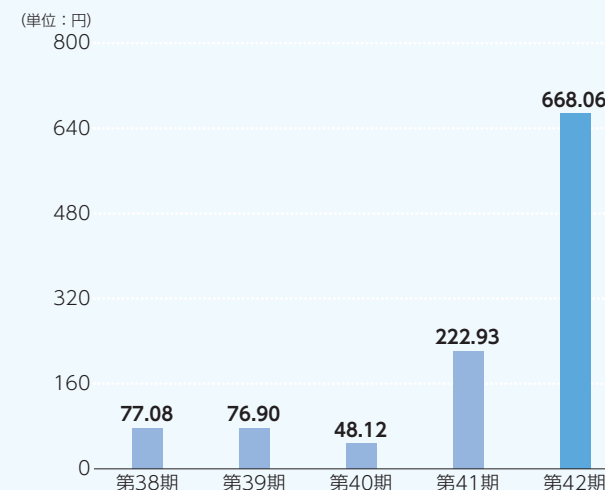
2022年7月吉日

財務ハイライト

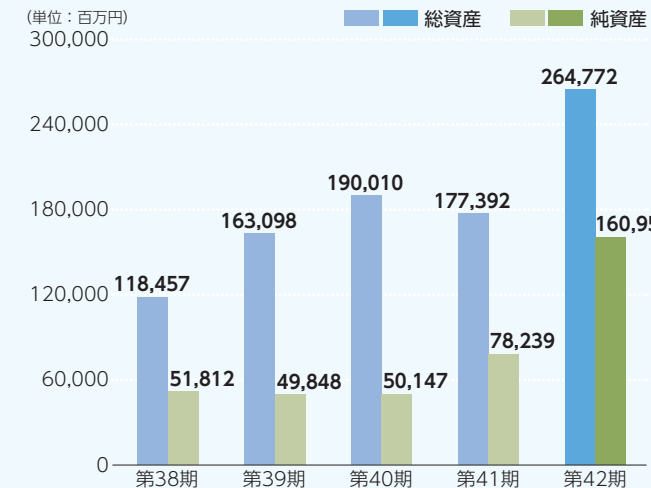
売上高／経常利益



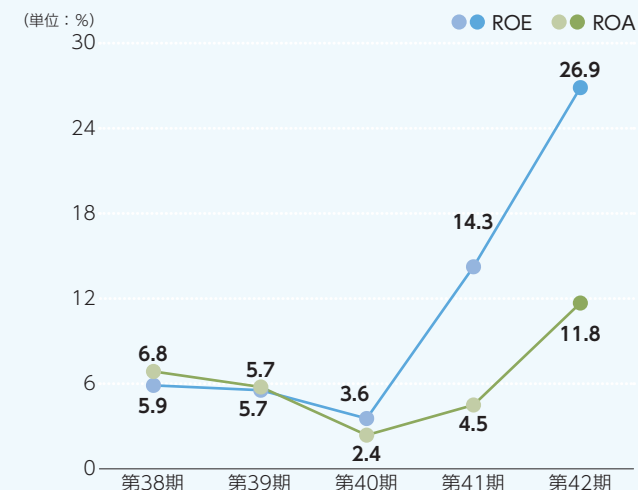
1株当たり当期純利益



総資産／純資産



ROE(自己資本当期純利益率)／ROA(総資産経常利益率)



特集
1

株式市場とのかかわり

一層の株式価値向上を目指して

JASDAQスタンダード市場から 新市場区分「スタンダード市場」へ

当社は本年4/4から東京証券取引所（東証）の新市場区分への移行に伴い「スタンダード市場」に移行しました。

同市場上場企業のコンセプトは「公開された市場における投資対象として一定の時価総額(流動性)を持ち、上場企業としての基本的なガバナンス水準を備えつつ、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上にコミットする企業」とされております。

市場、投資家の方々の期待に応えられるようガバナンス水準のブラッシュアップとともに持続的な事業成長を追求してまいります。

なお、当社は東証の定める銘柄選定型指数である「東証スタンダード市場TOP20※」の初回定期選定にて構成銘柄に選定されております。

※ 毎年10月に構成銘柄の見直し、選定が行われます。

見直し後の市場区分(2022年4月4日)

プライム市場 グローバルな投資家との建設的な対話を中心に据えた企業向けの市場	スタンダード市場 公開された市場における投資対象として十分な流動性とガバナンス水準を備えた企業向けの市場	グロース市場 高い成長可能性を有する企業向けの市場
--	--	-------------------------------------

スタンダード市場の上場基準(概要)

項目	考え方・狙い	概要		
		項目	新規上場基準	上場維持基準
流動性	一般投資者が円滑に売買を行うことができる適切な流動性の基礎を備えた銘柄を選定する。	株主数	400人以上	400人以上
		流通株式数	2,000単位以上	2,000単位以上
		流通株式時価総額	10億円以上	10億円以上
		売買高	-	月平均10単位以上
ガバナンス	持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現のための基本的なガバナンス水準にある銘柄を選定する。	上場会社として最低限の公開性を求める（海外主要取引所と同程度の基準を採用）		
		項目	新規上場基準	上場維持基準
経営成績 財政状態	安定的な収益基盤・財政状態を有する銘柄を選定する。	流通株式比率	25%以上	25%以上
		項目	新規上場基準	上場維持基準
		収益基盤	最近1年間の利益が1億円以上	-
財政状態	純資産額が正であること	純資産額が正であること		

貸借銘柄への移行

制度信用取引での「信用売り」取引が可能に(どの証券会社でも取引可)

当社は2022年3月30日より、新たに東京証券取引所の「貸借銘柄」に選定されました。

従来は制度信用取引での「信用買い」のみ可能でしたが、売り買い両方とも可能となり、投資家の方の取引の選択肢が広がりました。

今回の選定は、当社株式の流動性および需給関係の向上を促進し、売買の活性化および公正な価格形成に資するものと考えております。

特集
2

中計更新

更なる成長へ向け、基本方針を成長速度に合わせた内容へ微修正

事業成長	成長の徹底追求を更に加速、投資計画を1,800億円(+850億円)へ
財務強化	財務基盤の強化が進展、中国子会社IPOによる資本調達見込む
品質強化	品質管理の強化および、デジタル化・自動化・AI活用・見える化を加速
人材強化	事業の拡大に見合う、組織・人材の強化を加速

アップデート後の中期経営計画KPI(22年5月更新)

(金額の単位は百万円)	3カ年中計期間			目標
	22/3期(実)	23/3期(予)	24/3期(計)	25/3期(計)*1
売上高	133,821	180,000	230,000	290,000
営業利益	22,600	30,000	40,000	52,000
営業利益率	16.9%	16.7%	17.4%	17.9%
当期純利益	26,659	17,000	21,000	27,000
ROE	26.9%		15%目標	※1 25/3期(計)売上高のセグメント別、主要製品別詳細は開示なし
ROIC※2	15.8%		8%目標	※2 ROIC=親会社帰属純利益/(有利子負債+純資産) 純資産は新株予約権、非支配株主持分除く
自己資本比率	49.5%		40%目標	
投資額	35,712	73,288	71,000	
1株当たり配当金(年間)	50.0円	70.0円	配当性向20%目安	

業績目標：連結売上高、および営業利益目標

- 半導体市場の当面の伸長を背景に、25/3期の業績は2,900億円を目標とする
- 最適な事業ポートフォリオの確立に取り組み、25/3期の営業利益率は17.9%を目標とする

24/3期 売上高目標：2,300億円 (25/3期 目標値：2,900億円)	24/3期 営業利益目標：400億円 (25/3期 目標値：520億円)
--	---

特集
3 未来を創る半導体その基盤を支える
当社主力製品のご紹介

世界的需給の逼迫状態が続く半導体。半導体は数多くの工程を経て製造されます。フェロテックの技術と製品は、その製造工程で欠かせない存在となっています。

1 半導体製造装置向け治具・消耗材のマテリアル4製品／
シリコンパーツは急成長中

主に半導体製造前工程装置向けに使用される治具・消耗材として、当社が製造・販売している「石英」「シリコン」「セラミックス」「CVD-SiC」4種類の製品を総称して、「マテリアル製品」と言います。マテリアル製品の売上構成比率は、38.5%であり、当社最大の主力製品群です。半導体メーカーの新規設備投資、および生産稼働リポート需要に連動します。



シリコンパーツ



石英製品



セラミックス

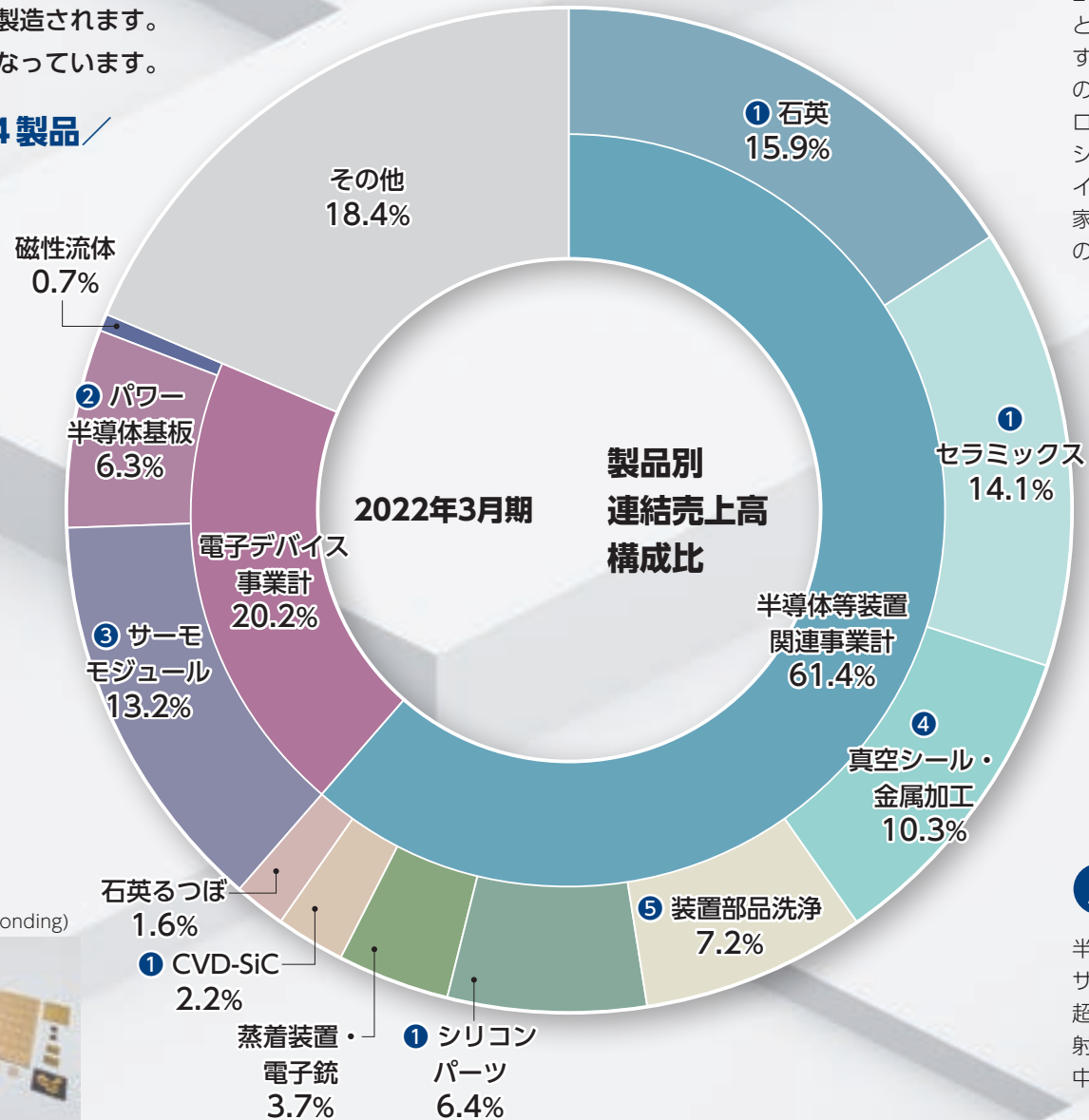
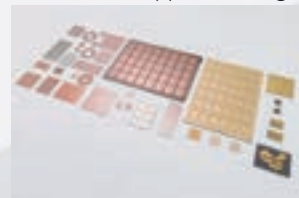


SiCパーツ(CVD-SiC)

2 急拡大が続くパワー半導体基板

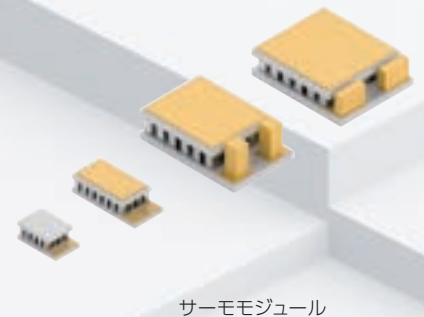
アルミナ等のセラミックスや窒化ケイ素などの基板に、銅板を直接接合、銅回路を形成した電子部品。電気的な絶縁とともに効率的な放熱、高強度が求められるパワーデバイスにおいて、広く使用されます。世界的な脱炭素社会実現へ向けた潮流から、各分野の電力制御や電気自動車の普及などが追い風となっています。

DCB(Direct Copper Bonding)



3 サーモモジュール

2種類の金属の接合部に直流電流を流すと、片方の金属からもう一方へ熱が移動するというペルチェ効果を利用した板状の半導体冷熱素子です。小型・軽量・フロン要らずの特長があり、自動車の温調シートを始め、冷却チラー、光通信、バイオ、エアコン、ドライヤー他、様々な家電民生品にも採用されています。当社のコア製品の1つです。



サーモモジュール

4 真空シール・金属加工

磁性流体を利用し、真空雰囲気内への回転導入機としての役割を担う真空シールは、半導体・FPD・LED・太陽電池各製造装置の機能部品であり、当社のコア製品の1つです。また、近年では半導体、FPD(有機EL・液晶)、その他産業分野向けの小型から大型部品までの金属受託加工事業のニーズが高まり急成長を示しています。



真空シール



金属加工

5 装置部品洗浄

半導体とFPD(有機EL・液晶)製造装置の部品洗浄サービスを中国国内で展開しています。純水洗浄、超音波洗浄のほかにサンドブラスターやプラズマ溶射装置も完備しています。今後はマレーシアのほか、中国外での事業拡大も計画しています。



装置部品洗浄

特集
4 日本拠点

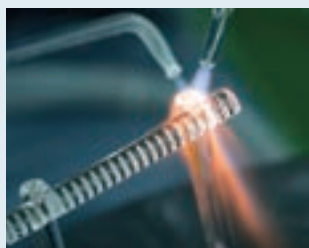
半導体市場で各社の投資が加速する日本国内 市場でも、今後更なる生産能力増強を計画

フェローテックホールディングス、および日本の主要な子会社である、フェローテックマテリアルテクノロジーズの社は東京の中央区日本橋にあります。日本国内の主要な生産拠点は、フェローテックマテリアルテクノロジーズ 石川、岡山、千葉、兵庫、およびフェローテック・アリオン 山形に配置しています。半導体市場を中心に、今後も日本国内の需要が拡大する見通しにあることから、研究開発機能、および生産能力の増強を計画しています。

山形県山形市

※ フェローテック・アリオン

超高純度のシリカガラスからなる石英製品の製造拠点。半導体製造分野でウエーハの薄膜生成や拡散プロセス、その他搬送、洗浄工程などの治具、消耗材として使用されます。



石川県白山市

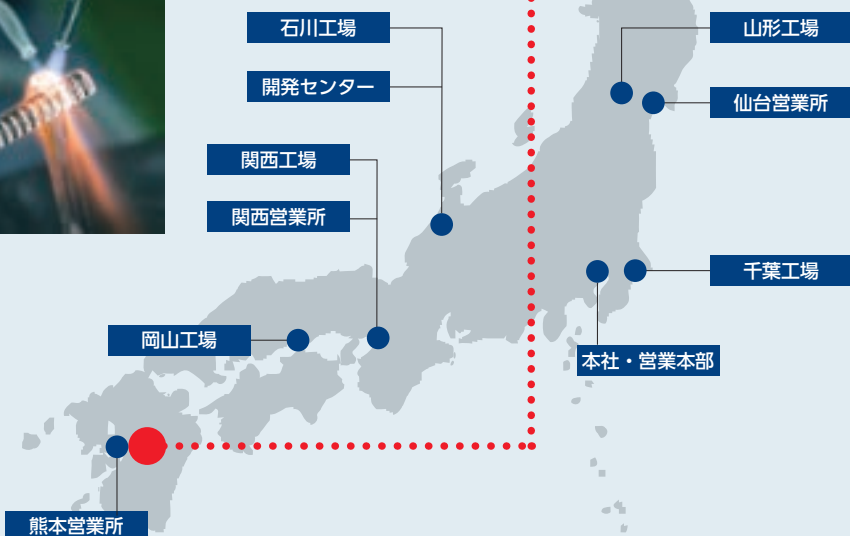
機械加工が容易な半導体や液晶の製造用部品、検査治具の材料となるマシンابلセラミックス(MC)の製造拠点です。

※ 22年10月には第2工場が竣工予定であり、MCの生産能力増強、および半導体製造装置用の部材フィンセラミックスの生産を計画しています。



岡山県玉野市

CVD法による独自のSiC成膜技術を用いたCVD-SiC(炭化ケイ素)製品の製造拠点。半導体製造分野で、耐摩耗性、耐熱性が求められる部材として使用されます。
※生産能力増強のため、第2棟を追加



生産拠点(新設)

熊本県菊池郡大津町

半導体関連製品・サービスなどの新拠点として、熊本県に新拠点を構築し、日本市場へのサービスを拡充していきます。



千葉県匝瑳市

当社のコア技術である磁性流体(磁石に引き寄せられる特性を持った機能性素材)、真空シール(磁性流体技術を応用し、半導体・FPD製造装置に不純物のない密閉空間を提供する機能部品)、サーモジュール(小型・軽量・フロン要らずの特長がある、様々な製品の温度管理が可能な半導体冷熱デバイス)などの製造拠点です。



兵庫県尼崎市

半導体製造(ウエーハ製造・処理・組立・検査)の各プロセスに使用される部品や一般産業機械分野で使用される耐摩耗・耐熱・耐薬品用部材であるファインセラミックスの製造拠点です。



マレーシアケダ州クリム・ハイテクパーク内(ペナン島近隣)に製造子会社である Ferrotec Manufacturing Malaysia を設立(22年4月)

近年マレーシア、シンガポールを中心に東南アジアでも半導体顧客の生産能力増強が相次いでおり、同地区に製造拠点を設けることにより顧客に密着した事業展開が可能であると判断しました。対象事業として、製造装置向けの金属加工・組立、半導体製造装置部材の石英・セラミックス、および装置部品洗浄サービスなどを計画しています。



チャットBOTシステム導入

当社ホームページにおけるユーザフレンドリー対応 ～ステークホルダーの皆さまへのサービス向上を図って～

新チャットBOTシステム導入(DX化推進)※(ホームページのTOPページからアクセスが可能です)。

※「BOT(ボット)」とは、「ロボット(ROBOT)」から生まれた言葉で、一定のタスクや処理を自動化するためのアプリケーションやプログラムのことを指します。



当社の事業は、BtoBビジネスであり、且つ製品ラインアップが多岐に渡ることから、事業内容の理解が容易ではないというお声を投資家層の皆さまからいただくことが少なくありません。このため、「チャットBOT」を表示することで、投資家層(または求職者・潜在顧客など)の知りたい当社の事業概要、財務情報、中期戦略、主要製品情報などをビジュアル的に容易にアクセスすることが可能になり、当社をご理解いただくためのサポートの一助になると考えています。

※ハイテク分野で事業を展開する当社のDX(デジタルトランスフォーメーション)推進の一環です。

● 業界用語集機能の導入

当社ホームページ内に、当社サイトや各種資料などで頻度高く使用する業界や社内の専門用語の用語集機能を導入しています。ステークホルダーの皆さまの当社理解を深めていただく上でお役に立てば幸いです。

用語のカテゴリー：当社工程、当社製品、工法、市場/用途、指標、設備、半導体、半導体設備



用語集ページ

<https://www.ferrotec.co.jp/glossary/>



地域別売上高構成比

※()は前期の数字

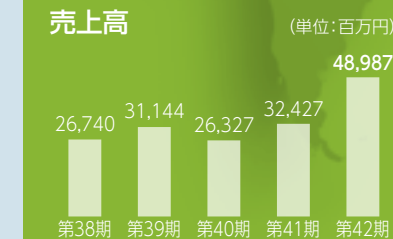


欧米 37%(36%)

フェローテックヨーロッパ(ドイツ)

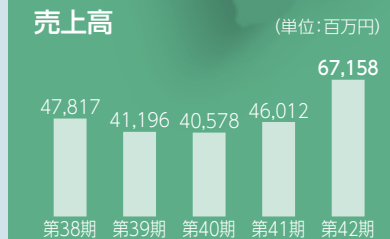


各エリア別の ポテンシャル



欧米エリア

- 22/3期は前年比+51.1%の増収。世界的な「デジタル化」「電気自動車(EV)」需要拡大等を背景に、半導体製造装置向け材料製品(石英、セラミック等)、および金属受託加工が大きく伸び、今後も当面堅調に推移の見通し
- 欧米向け医療・バイオ分野におけるサーモモジュール、磁性流体の安定した需要見通し



アジアエリア

- 22/3期は前年比+46.0%の増収。世界的なデジタル需要の伸長に伴い、半導体生産拠点が集中する中国・韓国・台湾顧客向けの材料製品、金属受託加工などが好調に推移(2/3期も新規設備投資、消耗品のリピート需要などが伸長の見通し)
- 中国国内の半導体顧客を中心とした生産能力増強に伴い、装置部品洗浄の需要拡大が継続する見通し
- 中国を中心に、5G通信基地局、およびバイオ医療向けサーモモジュール製品が好調維持の見通し。脱炭素社会の流れを受け、パワー半導体基板については大幅な需要増期待有り

日本 13%(14%)

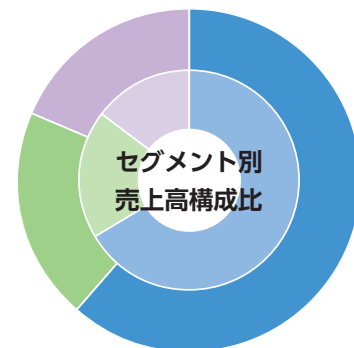
フェローテック本社



日本国内

- 22/3期は前年比37.3%の増収。半導体製造装置向け材料製品、産業機器・車載向けパワー半導体基板などの伸長が顕著(今後も当面堅調に推移する見通し)
- 日本国内での半導体関連顧客の生産能力増強が相次ぐことから、当社は日本国内でも積極的に各製品の生産能力増強を図り、顧客サービスの拡充を図る
- 医療・バイオ、およびウェアラブル分野におけるサーモモジュール、磁性流体は安定した需要の見通し

セグメント別事業概況



当社は、製品用途の類似性と販売先業種により区分し「半導体等装置関連事業」「電子デバイス事業」の2事業を報告セグメントとしております。

半導体等装置関連事業
電子デバイス事業
その他

	第41期 (内周)	第42期 (外周)
半導体等装置関連事業	66.4%	61.4%
電子デバイス事業	19.1%	20.2%
その他	14.5%	18.4%

半導体等装置関連事業

半導体業界では、世界的なりもトワークの浸透に伴い企業や学校でのWEB会議システムが普及した結果、パソコンやデータセンター用サーバ、通信分野などの需要が増大し、半導体デバイスなど電子部品の需給バランスが崩れ品不足が続きました。当社は、半導体デバイスメーカーや素材メーカーによる新たな製造拠点や増産体制づくりの進展に伴う製造装置需要の増加に加え、デバイスメーカーの高水準な設備稼働率を背景とした半導体製造装置メーカーの旺盛な需要を取り込み、本セグメント製品の売上を大きく伸ばしました。

売上高 **821** 億円 営業利益 **158** 億円

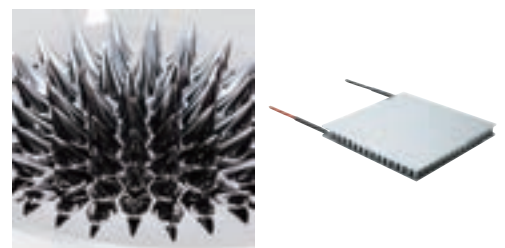


セラミックス製品 真空シール

電子デバイス事業

主力のサーモモジュールは、自動車温調シート向けが弱含んだものの、5G用の移動通信システム機器向けやPCR等の医療検査装置向け販売増などにより順調に売上を伸ばしました。パワー半導体用基板は、IGBT向けDCB基板の需要増を取り込んだことに加え、車載向けのAMB基板の量産が進んだことにより、大きく売上を伸ばしました。本製品は新工場建設を含む生産能力増強、並びに新たな素材の研究開発に取り組んでおります。また磁性流体は、新型スマートフォンのバイブレーションモーター向けの販売が堅調に推移しました。

売上高 **270** 億円 営業利益 **66** 億円



磁性流体 サーモモジュール

※ 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。
各セグメントの売上高は、外部顧客に対する数値を記載しております。

連結財務諸表 (要約)

決算情報についての最新情報、詳細につきましては当社のIRサイトをご覧ください。
<https://www.ferrotec.co.jp/ir/>



連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 2022年3月31日現在	前期 2021年3月31日現在
資産の部		
流動資産	133,414	88,024
固定資産	131,358	89,367
有形固定資産	84,083	53,146
無形固定資産	1,996	1,966
投資その他の資産	45,277	34,254
資産合計	264,772	177,392
負債の部		
流動負債	68,800	58,978
固定負債	35,014	40,174
負債合計	103,814	99,152
純資産の部		
株主資本	117,511	63,408
その他の包括利益累計額	13,511	3,684
新株予約権	45	81
非支配株主持分	29,888	11,064
純資産合計	160,957	78,239
負債純資産合計	264,772	177,392

※ 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期 2021年4月1日から 2022年3月31日まで	前期 2020年4月1日から 2021年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	17,833	13,217
投資活動による キャッシュ・フロー	△29,399	△20,879
財務活動による キャッシュ・フロー	30,601	21,694
現金及び現金同等物に係る 換算差額	3,341	174
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	22,376	14,207
現金及び現金同等物の 期首残高	30,202	23,709
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)	—	△7,714
現金及び現金同等物の 期末残高	52,579	30,202

※ 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 2021年4月1日から 2022年3月31日まで	前期 2020年4月1日から 2021年3月31日まで
売上高	133,821	91,312
売上原価	85,143	60,530
売上総利益	48,677	30,782
販売費及び一般管理費	26,076	21,141
営業利益	22,600	9,640
営業外収益	4,636	1,609
営業外費用	1,243	3,022
経常利益	25,994	8,227
特別利益	9,421	5,544
特別損失	1,767	2,483
税金等調整前当期純利益	33,648	11,288
法人税等	5,734	3,339
当期純利益	27,914	7,948
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	1,254	△332
親会社株主に帰属する当期純利益	26,659	8,280

※ 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 2021年4月1日から 2022年3月31日まで	前期 2020年4月1日から 2021年3月31日まで
当期純利益	27,914	7,948
その他の包括利益	12,402	2,358
その他有価証券評価差額金	91	272
為替換算調整勘定	8,997	1,595
退職給付に係る調整額	16	43
持分法適用会社に対する持分相当額	3,297	448
包括利益	40,316	10,307
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	36,486	10,513
非支配株主に係る包括利益	3,830	△205

※ 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式情報 / 会社情報 (2022年3月31日現在)

株式の状況

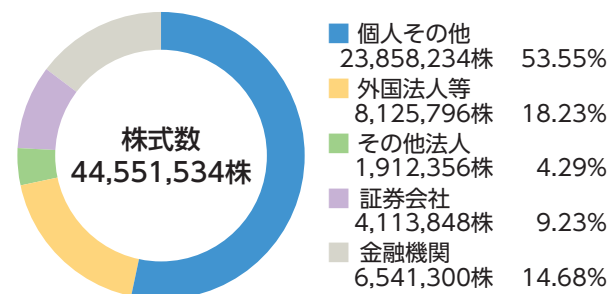
発行可能株式総数	67,000,000株
発行済株式総数	44,645,431株
株主数	40,210名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	1,531,500	3.43
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,464,700	3.28
山村 章	853,200	1.91
日本証券金融株式会社	811,900	1.82
JP MORGAN CHASE BANK 385632	810,191	1.81
SMBC日興証券株式会社	685,300	1.53
株式会社SBI証券	623,721	1.39
上田八木短資株式会社	549,600	1.23
MSCO CUSTOMER SECURITIES	540,300	1.21
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	532,300	1.19

(注) 1. 当社は、自己株式93,897株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 表示単位未満を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況



(注) 1. 自己株式93,897株は上記の円グラフ中の株式数に含まれておりません。
2. 表示単位未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

商号	株式会社フェローテックホールディングス (英文表記) Ferrotec Holdings Corporation
設立	1980年9月27日
資本金	282億1,013万3,302円
株式公開	株式会社東京証券取引所 スタンダード 1996年10月18日(証券コード:6890)
決算期	3月31日
従業員数	9,348名(連結)

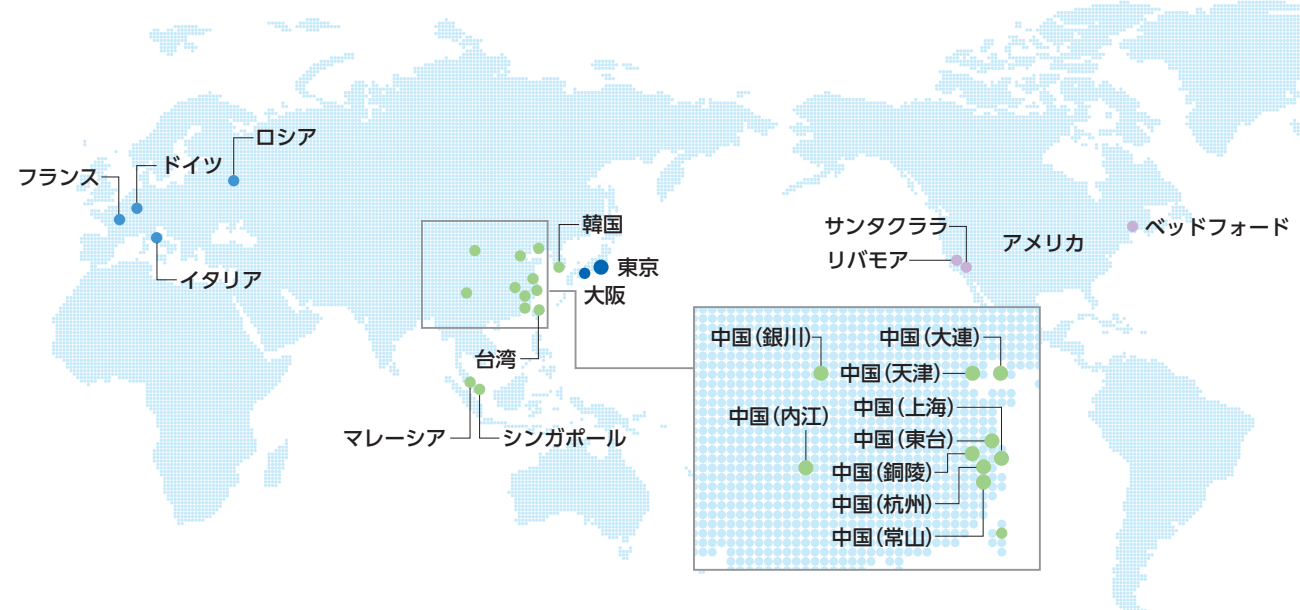
所在地

本社 〒103-0027
東京都中央区日本橋2-3-4
日本橋プラザビル5階

役員 (2022年6月29日現在)

取締役	
代表取締役社長	賀 賢 漢
代表取締役副社長	山 村 丈
取締役	宮 永 英 治
取締役	並 木 美 代 子
取締役	大 石 純 一 郎
取締役	武 田 明
社外取締役	柳 澤 邦 昭
社外取締役	岡 田 達 雄
社外取締役	下 岡 郁
監査役	
常勤社外監査役	樋 口 隆 昌
監査役	吉 田 勝
監査役	若 木 啓 男
社外監査役	松 本 拓 生

グローバルネットワーク



欧州

- フランクフルト (ドイツ)
- シュツットガルト(ドイツ)
- モスクワ (ロシア)
- リヨン(フランス)
- ミラノ(イタリア)

アジア

- 杭州
- 上海
- 銀川
- 天津
- 内江
- 大連
- 東台
- 銅陵
- 常山
- シンガポール
- 新竹 (台湾)
- ウィワソ (韓国)
- タンジン(韓国)
- クアラルンプール(マレーシア)

日本

- 東京[本社]
- 千葉
- 兵庫
- 石川
- 大阪
- 岡山
- 神奈川
- 山形
- ベッドフォード
- リバモア
- サンタクララ

販売拠点 生産拠点